東郷村報

第114号

昭和36年4月15日
発行所
宮崎県東旧杵郡
東郷村役場

東郷村婦人連絡協議会結成
十周年によせて

村長　黒木松美

本村婦人会が発足してここに十周年を迎えますことは会員の皆様と共に全く慶びに堪へません、心からお祝い申上ます、申上るまでもなく婦人の力は戦前戦後を通じそのいずれの時代に於ても強く結束されて社会の裏面の力として日本の政治に経済に或は民生の安定に極めて大きい役割を果し又大きい実績を挙げて来たのでありますがその根本となるものは婦人の持つ深いそして強い愛情のしからしむるものと私は思うのであります。

特に戦後に於ける悲惨な社会状勢の中にあつて失望のどん底からあらゆる苦難を克服して日本国民をして再建の希望を持たせ戦後の驚異的な復興をたすけ民主国家建設の礎を築いたのも亦婦人の愛情と団結の力が大いにその役割を果した結果であると私は信じているものであります。

「さわやかな希望の夜明け生活の窓を開きて進もうよいざ、いざ」この歌を静かに口ずさみながら、皆さん十周年を迎えたこの際婦協十年の歩みを静かにふり返つてみましよう。

昭和二十六年四月本村に於ける民主団体結成の先番を切つて東郷村婦人協議会は結成されましたが発足当時の活動は組織的に一貫したものがなく、ややもすれば指導者だけの活動にもなり勝ちなこともあり、又戦時中に於ける国防婦人会、愛国婦人会の様に国、県、村等の御用聞団体であるもののように一般に誤解もされて、その運営に困惑したこともありました。

然しその後間もなくこれ等の諸問題も関係者及会員の強い努力により解決されて協議会結成の目的に向つて着々と実績を挙げ村内は勿論県内に於ても最優秀なる団体として成長し今日於ては私共村民が肩身を広くし他に誇り得る団体として又村内に於いて最も古く最も多数の会員を持ち最も民主的な団体に発展しましたことは村はもとより婦人の皆さんを初め関係者の最も慶びとするところでありまして皆さんの御労苦については深甚な敬意と感謝に堪えません。

しかしながら現在の婦人協議会に全く非の打ちどころがないかと申しますと甚だ申しにくいことでありますが残念ながら私はまだまだ不充分だと言わざるを得ないのであります。

婦人協議会のもつ役割や使命については今ここで申上るまでもなく多くの人によつて語りつくされていますし皆さんもよく御承知だと思いますが課題は山積していると思うのであります。

特に経済の異状な伸長と復雑な世相の中に立つての婦人協議会のもつ使命は極めて重く且大であると言わざるを得ません又現在の婦人協議会の運営及活動の在り方等々についてもこの際大いに反省して婦協の体質をよりよき方向へと改善しなければならないと思うのであります。

「急がば廻れ」と言うことがあります、又乾燥不充分の米は不味いと評判され、急いだ仕事はゆつくりとやつた仕事よりも何によらず結果がかんばしくないと言われています。才気縦横の芥川龍之助を夏目漱石が教訓して花火のような仕事をしないで仕事は牛のように緩慢に重くやれと戒めたと聞きますがいずれも味ふべき言葉ではないでしようか日本人は結論を急ぐ性質が強く頭の働きが先に立つて観念の世界では先廻りがいくらでも出来るから途中を飛ばして議論しがちであるようです。

婦協発足十周年を迎える本年は牛の年であります、何も牛を見習へと言うわけではないがこんなときを機会に、ゆつくりとお互自分の足もとの地面を見つめながら歩いて前進しましよう。

急いだ仕事は充分土に根が降りない様に思います「反省からさらに前進へ」自信を深めてさらに前進を致しましよう、私は本村婦人協議会が発足十年の意義ある年を土台とし今後更に躍進的な発展をされることを大いに期待し団員各位の健康と幸福を祈つてやまない次第であります。

東郷村議会議長
新名岩喜

春陽映る今日、本村婦協十周年を迎え皆様と共に祝意を表わしますことは私の最も喜びとするところでございます。春雨煙る日、徒然のまま村郷村誌を繙く中に昭和二十六年四月村婦協を結成し会員一、三〇〇名と記され主な事業九が掲げてありますが、十周年の今日と雖も当時の目標が実践されつつある外、時代に即した事業が取入れられ、ますます内容の充実を期され、この間優良団体として表彰の栄冠にかがやき会史に一段の光を添えられました。

当時の方々が今なお健在の人も多数と存じますが既に退かれた先輩もまた尠くないと存じます。いづれも婦協、今日の盛大をなさしめた功績を偲びます時代の移り、時の流れと共に感慨一入と存じ深い敬意を表する次第でございます。ローマは一日にしてならずの諺をしみじみと感ぜさせるのです。

顧みますと過去にも婦人会は存在し特に愛国国防両婦人会の対立も記憶に新なるもので戦争一色の中に苦悩を綴つたのでございました寒さにふるえた者ほど太陽の暖かさを感じ人生の悩みをくぐつた者ほど生命の尊さを知ると論されていますが正にこの誕生こそ、そうだと思います。特に皆様の発展の中で表現力の著しさを認めざるを得ません。

このことは戦前の一般婦人に求むべくもないことの一つで如何に学習の必要かを如実に示すものとして感銘させられるのでございますその他貴重な体験枚挙に暇もないと存じます。十年一昔、確固たる基礎の上に立つ婦協一、四〇〇会員が協力をして、理想境実現の為一段の努力を期待して止みません。

県議　小野弘

大東亜戦の末期日本にとつて戦況は愈々不利で緒戦に制圧した太平洋の島々は次々に奪取されマリヤナ諸島中サイパン島も陥落近しとの悲報がもたされていた。集中する敵の攻撃に今はこれまでと思いを決めた島内の婦人達が故国の必勝を信じ丈なす緑の黒髪なびかせ乍ら断崖から次々と海中に身を投じて生命を絶つたのである。このことは当時国民の紅涙を絞る悲壮な報道であつた。この壮烈な行為は敗戦の色濃く憂愁の深淵にあつた国民にどれだけの勇気と力を与えたことか。拾数年を経た今日思えば残酷な女性哀史である。今にして考ゆれば何か外に方法はなかつたのかと色々の批判も生れるであろう。然し生命を国に殉ずることは当時の考えで最高の誇であり栄誉でもあつた。かかる風潮の中にか弱い婦人達が自から勇敢にこれを実行したのである。私は今此処にその行為の是非を論じようとは思わない。只、日頃柔弱と云われる女性に一旦緩急あれば斯くの如き勇気と結断が生れると云うことを今想起したのである。獅子から吾子を守つた母親、危機に頻した祖国を救つたフランスの一少女、数ゆれば限りない偉大な婦人の歴史である。終戦を機として婦人尊重の風習が台頭し社会は婦人を解放せよと叫んだ。法律は婦人の地位を強く保護する様になつた。平等の世界にあつてそれは当然のことであるが端的に云つて婦人の解放も強い保護もいまだ遠しの感が深い。特に農村婦人の場合、過重な労働もさること乍ら一家の主婦として母、妻として男性と同じ座が与えられているであろうか。深く思いを致さねばならぬ。

こうした忠実で勤勉で勇敢な反面、自主とか自覚或は責任と云つた面に甚だルーズなものを感ずるのは何故であろう。

私は前の総選挙に一部落の婦人全部が同一行動をとつた話を聞いた。それが真実の自覚から生れる行動であるなら称賛もされようが、一、二の煽動者による行動であつたときいてあ然とした。婦人を解放せよと叫ぶ反面強く反省すべきである。最近婦人の団体活動は男性を凌駕し絶賛を受ける様になつた誠に喜ばしきことである。

弱きもの強きものが団結する。お互向上の為、切磋琢磨する。或は婦人本来の使命を生かす為団結する。私達は心からその発展を冀うものである。然し私は此処に希望の一つとして団体活動に個人の犠牲を多くしてはならないことを望みたい優秀な団体は個人の犠牲によつてなるかも知れない。

戦時中の愛国婦人会、団防婦人会は個人の意志を否定する面もあつたが反面、人類愛に基く崇高なものがあつた様な気がする。今後婦人団体の活動は過去の反省と将来への希望を以てお互相たすけ睦み合い個人の向上を団り団体の発展を期さねばならないと思う。

東郷村婦人連絡協議会
陶山勲

東郷村婦人連絡協議会も昭和三十六年四月で十周年を迎えることが出来ました事は誠に喜びに堪えないところであります。心からお祝い申上げます。振り返つて考えて見ますと、日本も太平洋戦争に突入しまして、昭和二十年八月敗戦の憂目を見たのであります。終戦になりますと従来の各種団体は戦争に協力したかどによつて、進駐軍から解散するよう命令があつたのでありますが、婦人会も解消するの止むなきに至つたのであります。然し人間生活の中で豊かな文化生活を営みたいことは国民の等しく願うところであつたのであります。そこで各町村共、民主団体として婦人会を組織する気配が芽ばえて来たのであります。東郷村に於きましても、各々心ある人々が協議して昭和二十六年四月連絡協議会としての結成を見たのであります。然しその当座は民主々義を唱え始めて間もない時でありましたので、単位団体である部落の婦人会は全部が固つていたわけではなかつたのであります。この単位団体を固めるために昭和二十六年から昭和二十七年の始めまで掛つて、一とまづ全単位団体が結成されましたので、昭和二十七年七月幹部の指導者の研修会を中央公民館で開いたのでありますその後毎年幹部の指導研修会を行い、各部落でも各行事を遂行しましたので婦人会も健全な発達を遂げ、現在では有数な婦人連協となつたのであります。是は誠に慶賀の至りであります。然し希望を申上げますと、婦人会というものは他人の物でなく自分達の物で、自分達の生活を豊かにするためのものであるということです。決して昔のような国の為、戦争に勝つ為めのものではないのであります。皆が寄り集つて如何にしたら幸せな文化生活を営むことが出来るかを話し合い、共々に力を合せて、自分達の生活を向上するようにつとめることが婦人会の使命であります。そうすることによつて又住よい世の中ともなるのであります。

「吾物と思えば軽し笠の雪」ということがありますが、婦人会も自分のものと思えば何の苦になることなく、楽しい文化生活が営なまれるようになるものと思います。

本年で連協も十歳になりました。益々健やかな発展をお祈りして止ません。

桜

水の音に似て啼く鳥よ山ざくら松にまじれる深山の昼を
なにとなきさびしさ覚え山ざくら花ちるかげに日を仰ぎ見る
咲き満てる桜のなかのひとひらの花の落つるをしみじみと見る
寝ざめぬて夜半に桜の散るをきく枕のうへのさびしきいのち

牧水

東郷村社会教育委員
長田秀太郎

心から十周年の御祝を申し上げます。

十年たつた今日、美事な充実成長をとげて、地域社会の改善や、村の発展などに目ざましい活動をつづけている会の近況を聞くにつけても思い出すのは、私が社会教育主事として御村に職を奉じ、婦人会の結成に走りまわつた当時のことであります。

私が社会教育主事を務めていたのは、昭和二十三年の四月から二十五年の三月まででした。

その頃、戦争協力団体として以前の婦人会は解散を命ぜられ、戦争に負けて今さら婦人会でもと、会の結成には全くのとこ条件がよくなかつたのでした。

一、事業団体であり地域的であつてはならない。二、会名は事業内容を具体的に表わすこと。三、目的を同じくするものに限り連合会をもつことができる。とこのような条件で団体の結成が民政部に認められていました。

社会教育の足場は団体にと考えた私は、毎晩々々各部落を訪れては婦人会の結成について話合いました。会を重ねるに従つて会の結成についての気運が次第に盛り上り、ほぼ一年間で、家庭菜園研究会、生活改善クラブ、育児研究会等々、各小部落ごとに婦人団体が誕生しました。

農繁期をのぞいて毎月例会がありました。五十を越した私には可なりの負担でしたが、会がすんで、お手製のだんごなどでお茶などを飲む時は心からの生き甲斐と喜びを感じました。

あれから十有余年、組織機構も変り活動の内容もあの当時のそれに比すべくもありません。しかしあの幼稚な婦人の集りが今日の婦協の基底になつていることはいなむことのできない事実だと思います。

私は東郷村婦協に、いささかなりとも関係をもち得たことに光栄を感じますと共に、今日の大をなすまでに努力を積み重ねられた会員と指導者の方々に深く敬意を表します。

教育長　塩月儀市

太平洋戦争の敗戦により、国土は灰燼と化し、人心は虚脱状態に陥り、物資は極度に欠乏して、索莫たる生活の中から祖国再建の悲願に燃えて、いち早く立ち上つた団体は婦人団体でありましたが、昭和二十三年十月、いわゆるケーズ旋風によりましてその組織や運営が民主的でないとの名の許に解散を要請されて涙を呑んで発展的解散をしたのでありました。

ようよう芽生えたばかりの婦人会も再び新芽をつみとられたのであります。

その後は、専らグループの結成とその育成に力がそそがれてその間に民主主義の教養をつみ、会員意識も漸次深まつて来たので、昭和二十六年四月二十五日に結成にふみ切り、ここに「東郷村婦人連絡協議会」が新生いたしました。

婦人会が社会教育関係団体で教育委員会の指導の下にあることは、今更申すまでもないことでありますが、婦人会の運営はどこまでも自主性がなければ民主団体としての生命はないと信じます。

この指導と自主性との関係はなかなかむずかしいことで、指導が加わり過ぎると自主性を失い、自主性が強すぎると独走におちいるおそれがあります。

幸に本村婦協はこの点ではよく調和のとれた歩みをつづけて、ここに十年の歴史をうちたてたのであります「ローマは一日にして成らず」の語の如く、本村婦人会にしても、生れいづるなやみ、運営のなやみ、など幾多のなやみを切り拓いて今日に及んでいるのでありますが、今後なお切り拓いて進まなければならぬ幾多の問題があるようです。その中最も大事なものの一つは「婦人会の存在価値の認識と会員意識の高揚」にあると思います。

私は一千四百名の婦人会員の方か「明るい家庭、住よい郷土」建設の理想の下に利己心を捨て奉仕の心をもやし互に手をとり、足なみそろえてすすまれますよう切望してやみません。

母を賛えよう

5月の第二日曜は母の日です
胸に幼き日の母のおもいでをいだい
てカーネーションに感謝のまごころ
こめて母をたたえましよう

初代会長　甲斐あぐり

慰問文を書いたり、慰問袋を送つたり、若しも敵兵が上陸したら、手榴弾で子供も一緒に祖先伝来の墓地に集り自決などと話し合つたことなど終戦時を思い出して見たくなります。そして終戦後の混沌とした何の慰安もなく、楽しみも希望もない、語り合う機会もないほんとうに淋しい自分だけの生活が始まつたのでした。

日に日に成長してゆく子供を見つめます時ギョッとして、親としての責任を思い自らの本然の姿に気付いたのでした。生きて行かねば－母としての願望が目覚め盛り上がつて来たのでした。打つて一丸となり、皆んなの力を結集してとのことで、先進地を視察して協議会結成発会となりましたそれから丁度十周年!!其の筋の適切な指導と会員の自覚に依りまして県下の模範婦人連絡協議会とまでに成長しましたことは大変よろこばしいことだと本当に喜ぶ次第でございます。公共的にも知識的にも、また世間的にも、男子の方についてゆける様になりましたことも驚くばかりの成果だと思われます。深く敬意を表します。けれども唯一つ＝この美事な進歩に伴いまして、物悲しい思いをいたしますのは、出産御喜びの数の少くなつたことでございます。新しい生命の芽萌えに対する敬祝の意の表し方を如何にするかなどしみじみ思うのであります。婦協生れて十年、私たちの団欒の燈火を明るく強く守りつづけましよう。

二代会長　長田つい子

十周年おめでとうございます。

昭和二十六年四月二十五日婦協発会の当日は私も会員の一人として、皆様と席を同じくして将来の活動等について、こうもああもと情熱をもやしたのでした。それから御村を離れます日まで、総会に視察に時折りのレクレーションに行を共にさせて戴き数々の楽しい思い出をもつて居ります。今東郷宮崎と所を異にして居りますが折にふれ事にふれ当村を思い出し皆様のみもとへ懐かしさと親しみの情を寄せています。結成後十年東郷村今日の進展に大きく貢献せられたあなた方には今後も大きな期待がかけられて居ります。農業経営の更新、家庭の民主化環境衛生新生活、青少年育成等数え切れないほどです。どうぞ皆様整つた婦協の機構の中で絶えず研究実践に努めて下さいまして、文化の村東郷の建設に偉大なる婦人の力を示して下さいます様御願い致します。

私は目下婦人会にも席をおいて居りません。毎日を家事のあれこれに過していますでも「暮しは貧しくとも心は豊かに」と努めて新聞や雑誌にも親しみ、婦人会の行事や講演会等にはまねかれざる客として、出来るだけ出席する事にして居ます婦人の会合等に行つて会員が活発に学習しておられる様子を見ていますと、ともすれば老こみがちな私の心にも若い情熱が帰つてくる様な気が致します。……私の近況の一たんを

三代会長　三尾文子

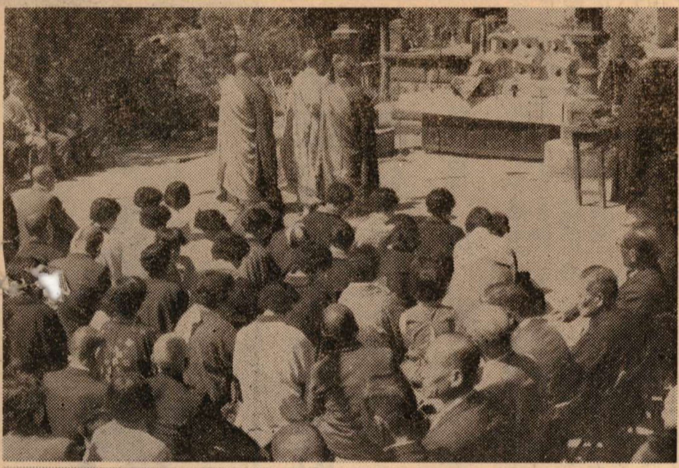
陰矢光の如しとか、本村婦協が誕生して早くも十周年を迎えました。あの敗戦の打撃から漸くたち上り生活の充実を求めて私達がすがりついたよりどころ、それは婦人の地位向上のかけ声と共におこつた民主団体の育成という事業でした。戦時中の総動員体制の婦人会ではなく、下からもり上つたもの、自ら求むるものとしての婦人団体を目指したのでしたが、たずさわつて見ると決してたやすい事ではありませんでした。天降り式に慣らされた人々は何物かを求めつつも仲々自主的に行動することができず会員の勧誘は思うようにはいきませんでした。

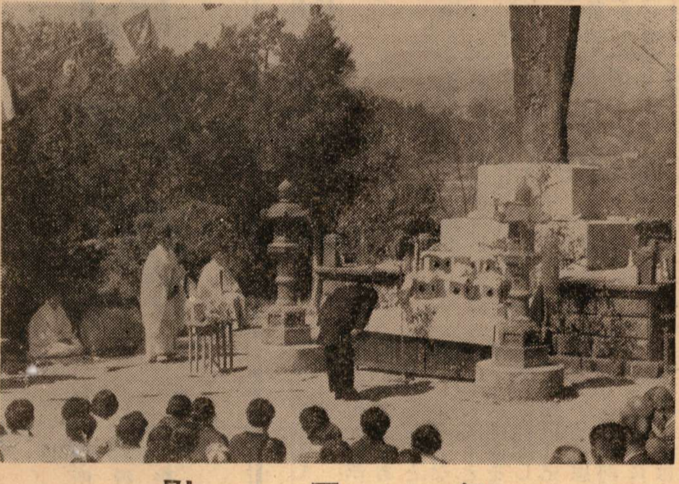
当時の指導者としての長田先生、陶山先生のお名前をなつかしく思いうかべるのでございます。現在の共進会の盛会ぶりや、婦人大会等の賑いを見るにつけ、聞くにつけ結成当時の関係者の一人として感無量なものがございます。

昭和二十七年教育委員会が設置され教育長塩月先生をはじめ社会主事先生方のご指導は成果を得、又各役員の努力により本村婦協は日に日に成長してきたのでございます。然しながら冷静に現況を反省いたしますと、年令の差や、環境の違いから生じるいろいろな問題等、今後に一つの課題が残されております。すべて生活の根底は経済の確立にあると思います。お互いが更によく研究して生産を高め、着実に足下から地固めをして一歩又一歩と、うまず、たゆます向上につとめてゆかねばならぬということを十周年記念の今日、思いを新にしようではありませんか。

東郷村婦協長　塩月みどり

昭和二十六年四月本村婦人連絡協議会が民主団体として発足いたしましてから満十周年を迎えました事は喜びに堪えません。省りみますと敗戦の痛手のまださめ切らない戦後の困難な時期に結成されました当時の会長甲斐アグリさん始め役員の方達の生みの御苦労は並々ならぬものがお有りであつたと御推察申しあげております。過去十ケ年の歩みを振り返つてみます時、歩みは遅々としてはいますが社会をよくし家庭を明るくする主婦の願いを結集して学習活動や社会活動が行われて居ります。こう申しますと如何にも立派な活動が行われている様で御座いますがけつしてそうではございません。一つの行事を行つてゆこうと致しましても常にそこには会員一人一人の立場が違い足なみもそろいにくく、まして地域を基盤といたしました組織の婦人団体にはその悩みが非常に大きいので御座います。話し合いで進めました事がグループにゆきました時には命令的になつたり色々な誤解を受ける場合も御座います。本年度から文部省に婦人教育課が特設されました。それだけに婦人教育に重きを置かれております今日、本村婦人といたしましても十年を契機に更に身近かな婦人自身の足元の問題を取り上げてグループ活動をもつと盛にし団体の力で住みよい豊かな村作りに精進致し度いと存じます。





慰霊祭

4月3日、東郷村主催で戦歿者の慰霊祭が成願寺境内の忠魂碑前で行われた。万朶の桜に春の暖き日ざしが降りそそぎ、吹く風に花吹雪が祭場浄め、遺族、来賓者にあふれて盛会裡に慰霊の儀が行われた。

防犯　派出所だより

みなさん、若芽のめばえと例年の花見の行楽期が訪れました。毎年この季節には酒等が原因で重大交通事故が多く発生しています。酒を飲んで楽しくすごされることは結構ですがことに運転者の場合は「悲しい酒」ともなるおそれがありますので充分御注意下さい特にバイク以上の運転者は酒のため思いがけない結果をまねくことになりますので花見酒は車をしまつてから楽しくかわして下さい。

警察では、特に行楽期の飲酒運転、定員外、速度違反の取締りを厳重に行なうようになつておりますので皆様の御協力をお願いします

なお、暴力団が横行する季節でもありますので、もしたかられたり、乱暴されたり、被害にかかられた時は勇気を出して警察にお届け下さい。

役場だより

四月十日付で役場職員が次のように任命されましたのでお知らせいたします。

主事　中田　豊　国民健康保険課保険係主任事務取扱（兼務）
主事　寺原　寿夫　国民健康保険診療所庶務係主任
主事　本多　茂雄　国民健康保険課保険係（兼務）
主事　東村　吉市　総務課国民年金係主任
主事　畝原　正義　総務課消防係主任、統計係主任（兼務）
主事補　筌瀬　亀夫　税務課徴収係、（自動車運転を本務）
主事補　矢野　望　農業委員会勤務
主事補　橋口　幸一　国民健康保険課、保険係（兼務）
主事補　沖田　征郎　税務課徴収係
主事補　吉野　哲郎　土木課失業対策係、土木建築係（兼務）
主事補　黒木　一希　税務課賦課係
雇　中村　紘子　教育委員会事務局勤務、議会事務局勤務（兼務）
雇　直野喜代美（新採用）　総務課庶務係（電話交換手）

教育委員会だより

三月末の県下教職員異動で本村に長らく御勤務いただいた十四名の先生方がそれぞれ転動になり、新に十五名の先生方のお出を願うことになりました。

転出された先生方には不便なこの地で熱心に教育に従事していただき誠に有がたうございました、厚く御礼申しますとともに今後の御多幸を御祈りいたします

御来任いただいた先生方には山村で何かと御不自由でございましようが本村教育向上のために御精進下さいますようお願い申します

【転出】

（東小）金丸　享男教諭　日知屋小へ
斉藤　明子教諭　三財小へ
（坪小）小野十四生教諭　鬼神野小へ
赤木　嘉美教諭　日知屋小へ
岩切　英雄教諭　南郷中へ
（福小）柳瀬　保夫教諭　諸塚中へ
黒木　祥子教諭　退職
（寺小）竹尾　忠重教諭　美々津中へ
村山マツミ教諭　北郷小へ
（越小）溝部　隆子教諭　日知屋小へ
（東中）緒方　定雄教諭　西高岡中へ
下田　正徳事務官　日向中へ
（坪中）五島　宏教諭　鹿児島県へ
（分校）中田　早苗教諭　東郷中へ
志垣　澄幸教諭　唐瀬原中へ

【転入】

（東小）佐藤つたえ教諭　平岩小より
海野　正則教諭　日知屋小より
佐藤　悊教諭　三椪小より
佐藤　実子教諭　三椪小より
（寺小）河野　鎮子教諭　都農南小より
（越小）河村　久子教諭　那珂小より
（東中）川野　光雄教諭　下赤小より
金丸　絢子教諭　有水中より
中田　早苗教諭　越分より
成相誠一郎教諭　新採用
窪田　博美教諭　新採用
（坪中）川本　哲夫教諭　諸塚中より
阿万　英俊教諭　新採用
工藤　繁樹教諭　新採用
（分校）河村　正之教諭　佐土原中より
上前田武久教諭　新採用

延岡の牧水歌碑祭

都甲鶴男

牧水の歌碑祭は、例年通り三月二十一日彼岸の中日、城山の歌碑前にて行われた延岡市文化連盟会長芦谷新一さんの挨拶の言葉に「この歌碑祭は主催者はいません。只誰というなく集まつて、この歌碑祭を続けて今年で二十七回となりました」とあるを聞いても、いかめしい主催者も何もなく牧水が旅に出るような人々である。

越智さんは、この集る人々の中より、いつとはなしに主人公にまつり上げられた形となつてしまつた。

この日は雨だつたが春雨である。丁度十二時頃は霧のような雨。

仲田又次郎、越智渓水御夫妻。芦谷文化会長、渡辺修三、高森文夫、折小野市長平沼議長、新聞放送関係者小野弘県議は、わざわざ宮崎よりかけつけてくれたことは、我々郷土の者として嬉しかつた。

十二時の城山の鐘を合図に越智さんは注酒碑にどくどくとかけられていく。平山さんの「なつかしき城山の…」朗詠も同時にはじめられた。碑に泌みこみゆくは、酒と声の調のいぶきである。並みいる五十有余の参列者は、ただ寂然、牧水の旅行く姿がまざまざと浮ぶ。坪谷の牧水祭も、野趣的にして牧水祭の祭の字にふさわしいものであるが、城山の歌碑祭は心ある人のみの集いだけに、より文化的で趣好が面白い。

続いて谷自露さんの歌碑に自露さんが生前好きだつた「よもぎのだんご」が平尾よし子さんの手で供えられると同時に越智清子さんの朗詠

自露さんの碑歌である。清子夫人なかなかの朗詠ぶりすがすがしい気分が自づと湧く。

碑前の儀が終れば、そこにござを敷いて供えた酒で会談がはじまるのであるが、今年は相にくの雨、会場を市の職員寮に移して座は始まつた。越智さんがまず墨痕鮮やかに即歌をかかれるついで柳田杉風さん、平山さん、越智清子さん、平尾さん、折小野さん等と、仲田さんの俳句も亦一興。愈々湯呑みわんにての注酒、注酒

声高らかに風刺笑談をなすは黒木画伯

皆大分気分が出て来た、あちこちで文化人らしい毒説笑談

小野県議もいやがるを強く平沼さんに推されて「ふるさとの尾鈴の…」の朗詠、「こりやほんもんの朗詠じや、ほかんもんの、あ、ありや歌じや…ハハハ…」と大声をあげて一同を拍手と爆笑に追いこんだのも黒木画伯、酒もつきず、話もつきず、窓外の雨もなかなかにやみそうもない。

「やつぱり春の雨か」といつた風景で城山の歌碑まつりに集える者ども、来る年をたのしみに三、三、五五と散りゆく。

点滴

◇本村婦協が生れ出でて今年は、満十年、その間のことを顧みるとまことに感慨深いものがある。

◇結成当初は色々な小言もあり、批判もあつたが、とにかく婦協会員の努力と、村民各位の協力を得てここまで成長したことは同慶に堪えない。

◇その間、昭和二十八年の文化の日には、県より優良婦人団体として栄の表彰をうけ、三十年には「婦人団体を中心とする総合活動」のテーマで県から研究指定をうけ、翌三十一年には「新生活講座」の研究を県より命ぜられ、三十五年には文部省から「婦人学級」の研究を委嘱され、本年は再び県から研究を指定されるなど、研究の機会と場を与えられたことは、本村婦協の歩みには大いにプラスになつた。

◇しかし、こうした大きな行事については、その指導者や責任者の苦労は並大低のものでないことは今更言を待たないところで、その点、心から敬意を表したい。

◇ともあれ、ここに十周年を迎えた本村婦協が、更に百尺竿頭一歩を進めて、輝かしい二十周年を迎えられるよう祈念してやまぬ。

道芝やたんぽぽの花低く咲く。